

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 消化器外科学教育研究分野 氏名 櫻庭 伸悟
指導教授氏名	袴田 健一
論文審査担当者	主査 黒瀬 顕 副査 水上 浩哉 副査 高井 良尋
(論文題目) MUC5AC-negative phenotype is correlated with poor patient prognosis of pancreas head ductal carcinoma. (膵頭部癌と遠位胆管癌における粘液形質発現の違いによる臨床病理学的因子との関連解析)	
(論文審査の要旨) 900 字程度 膵頭部癌と遠位胆管癌はいずれも予後不良な癌であるが、ことに膵頭部癌はより悪性度が高い。近年ムチンのコア蛋白質 MUC の形質と悪性度との関連が膵管内乳頭粘液性腫瘍において報告されている。しかしながら膵頭部癌や遠位胆管癌においては未だ報告をみず、これら二種類の腫瘍において MUC 形質と臨床病理学的因子との関連を解析した。 治癒切除による膵頭部癌 40 例、遠位胆管癌 47 例を対象に、切除標本における MUC1, MUC2, MUC5AC, MUC6 の発現を免疫組織化学的に調べ、陽性細胞が 10%以上のものを陽性群、10%未満のものを陰性群とし、MUC 形質と臨床病理学的因子および予後との関連を統計学的に解析した。 その結果、膵頭部癌では遠位胆管癌と比較して神経周囲浸潤とリンパ節転移が有意に多く、MUC2 と MUC6 が陰性のものが有意に多かった。膵頭部癌の生存解析では、単変量解析で静脈浸潤例と MUC5AC 陰性例で、多変量解析では MUC5AC 陰性例で有意に予後不良であった。遠位胆管癌の生存解析では、単変量解析でリンパ管浸潤例、静脈浸潤例およびリンパ節転移例で、多変量解析ではリンパ管浸潤例と静脈浸潤例で有意に予後不良であった。また MUC5AC 陰性の膵頭部癌は、MUC5AC 陽性の膵頭部癌、MUC5AC 陽性の遠位胆管癌および MUC5AC 陰性の遠位胆管癌のいずれと比較しても有意に予後不良であった。 MUC 形質は臓器や細胞ごとに異なっており、腫瘍ではその発現型によって進行などのがん細胞の生物学的挙動が調節されると考えられている。今回の研究から、MUC5AC 陰性であることが膵頭部癌の予後不良因子であることが初めて明らかとなった。 本研究は癌治療の大きな課題の一つである膵頭部癌において、MUC5AC 陰性であることが予後不良因子であることを初めて明らかにしたものであり、今後の膵胆管癌研究や治療法の開発に資すること大であると認められ、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	弘前医学に受理

※論文題目が英文の場合は () 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～～「学位授与に値する。」と記入する。